

## 世界史

(分析は一般入試Aの問題のみです)

## 出題傾向

入試日程	大問	出題分野・テーマ	難易度
2 / 3	問1～問26	古代から現代における様々な地域の歴史的事象	標準
2 / 4	問1～問26	古代から現代における様々な地域の歴史的事象	標準
2 / 5	問1～問26	古代から現代における様々な地域の歴史的事象	標準

2019年度までとは異なり、いずれの日程においてもリード文のない一問一答形式で出題されている。全26問の設問で、問われている内容に関連性はなく、解答形式は全てマークシート方式である。出題形式は、4つの語句や歴史的事象から適切なものを選択する問題、4つの短文の正誤判定問題、4つの出来事の年代配列問題と様々である。日程によって多少の差異はあるものの、26問中19～21問(全体の7～8割の設問)で正誤判定問題の形式がとられており、他大学の入試問題の出題構成と比較すると、正誤判定問題の出題が多いと言えよう。なお、地図や写真などの図版を用いた問題は出題されていない。

2月3日と2月4日の問題においては20世紀前半までの出題が中心で、第二次世界大戦以降の出題は少なかったが、2月5日の問題においては現代史に関する設問が6問あった。したがって、全体としては古代から現代まで時代の偏りなく出題されており、必ず全時代の対策が必要である。出題されている地域は、教科書の記述の比重に沿ってヨーロッパと中国に関する設問が中心であるが、ハワイや朝鮮半島、アフリカといった学習が疎かになりがちな地域からも出題されているため注意してほしい。出題されている分野は政治史が中心である。正誤判定問題の選択肢の中に文化史に関する記述も見受けられるが、まずは政治史を中心に学習を進め、関連する文化史へと知識をひろげていくとよいだろう。

問題の難易度は標準的で、教科書の内容を大きく逸脱するような出題はない。ただし、正誤判定問題の中には選択肢の一文がやや長く、細かな内容を含む出題もあるため、教科書を基本に据えながらも、適宜、用語集等で補足するなど丁寧に知識を身につけていくことが大切である。

**世界史**

(分析は一般入試Aの問題のみです)

**学習対策****●古代史から現代史まで全時代の対策ができるよう学習計画をしっかりと立てよう**

椋山女学園大学の入試では全時代に関する問題がバランスよく出題されるため、未学習な時代があると高得点は望めない。古代史から学習を始めて近代史・現代史の対策が不十分なまま入試当日を迎えるといったことがないように、計画的に学習を進めてほしい。前述したように椋山女学園大学の入試問題においては正誤判定問題が多く出題されるが、この形式の問題は特に演習を重ねる必要がある。したがって、苦手な範囲を復習する時間や、問題演習を繰り返す時間もしっかりと確保しておこう。

**●教科書の精読を行い、歴史の基本的な流れを理解しよう**

椋山女学園大学の入試問題は学校の定期試験のような時代ごと、地域ごとの出題ではないため、戸惑う受験生もいるかもしれない。しかし、概ね古代史から時代順に設問が構成されており、教科書に沿って歴史の流れを理解していれば、決して解きにくい問題ではない。また、問われている内容も教科書レベルの知識がほとんどであるため、まずは教科書を精読し、歴史の大きな流れを理解するとともに、基礎的な知識を着実に身につけていこう。

**●用語集や資料集を活用し、知識を深めていこう**

椋山女学園大学の合格を勝ち取るためには正誤判定問題でしっかりと得点できる知識を身につける必要がある。特に、政治史については単なる重要語句の暗記ではなく、それぞれの歴史的事象がどのような背景・原因のもとで起こったのか、関わった国や人物にはどのような事情があったのか、その結果どういった影響が社会や周辺地域にあったのかなどを考えながら理解を深める学習を習慣づけてほしい。常に「なぜ」という歴史への問いかけを持ち、教科書の記述内容で十分に理解できないところは、用語集や資料集を活用し、丁寧に知識を補足することが大切である。

**●積極的に正誤判定問題の演習をしよう**

正誤判定問題を苦手としている受験生は演習不足が原因であることが多い。正誤判定問題の対策に特化した市販の問題集はたくさん販売されている。ぜひ一冊購入し、積極的に演習してほしい。その際、なんとなく正誤を判断するのではなく、誤文についてはどの部分が誤っているのか自分の知識を活用して考え、その部分を正しい表現に書き換えながら問題を解くことが大切である。明確な根拠を持って正誤の判断ができなかった問題は解説などをよく読み丁寧に確認しよう。この繰り返しにより、選択肢を注意深く読む習慣がつくとともに、徐々に頻出の誤文パターンも把握できるだろう。地道な演習によりしっかりと実力をつけ、自信をもって入試本番に臨んでほしい。